

| | |
|--------------------------------------|---|
| 日 時 | 令和2年8月30日(日曜日) (14:00) ~ (16:00) |
| 場 所 | 大庄北生涯学習プラザ3階ホール |
| 資 料 | <p>「第3回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ レジメ」 「第2回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ 会議記録」 「大庄西中跡地活用団体 大庄おもしろ広場について」 「旧大庄西中学校跡地及び南ノロ公園 図面」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ参加者」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ事務局出席者」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップの運営スケジュール」 以下は大原氏配布資料 「あしたのまちくらしづくり」 「大庄おもしろ広場の総括とこれから」 「中学校跡地活用とソーシャル・キャピタル」 「その他大庄おもしろ広場関係資料」</p> |
| 内 容 ・協議事項 ・決定事項 ・連絡事項 など | <p>1 開会の挨拶 (所長挨拶後、事務局より配布資料の確認、及び議事内容についての説明) 市 : 会議記録については、修正や加筆等あれば事務局まで連絡をしてほしい。最終確認後、HPに掲載する。</p> <p>2 第2回ワークショップの振り返りについて (1) 大庄おもしろ広場について市からの説明 (資料「大庄西中跡地活用団体 大庄おもしろ広場について」に沿って説明) (2) 大庄おもしろ広場について活用団体代表からの説明(要点) (資料「あしたのまちくらしづくり」ほかに沿って説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは協働の為にやってきたし、この跡地活用に活動が活かされて繋がっていくと考え、行政を信じてやってきた。しかし、今回のワークショップを通じて、何のために10年間やってきたのかと疑問を感じている。 ・特に第2回のワークショップのなかで、跡地の一部を民間に売却したいという話があったが、承服できない。 ・先程の市からの総括説明で、おもしろ広場の活動の価値について具体的な説明はほとんどなく失望している。 ・我々は新しい公共という概念を実現するために、市民と行政が協働でやっているという考えに基づいている。この活動は兵庫県の上位の団体として認定され、補助金や表彰を受け、市も県も全国組織も評価してもらっている。 ・おもしろ広場の運営委員会は一旦役割を終え、新たに持続可能な組織を地域の皆さんでつくり、市の地域課とも協働して何か母体をつくり運営していくのがいいのではないか。若い世代がこの仕事をソーシャルビジネスとして担うことによって、一部の人達しか利用していないといった批判にも応えることができるのではないか。 ・若い人達だけでなく、価値観を持っている人達が対話を通じて地域を繋げていく。そんな活動の場をつくっていったらと思う。 ・先週、市長に会って意見を聞いた。市長からは、「公民広場のような場所としてこの場所を考えるべきだ」と思う。ワークショップのなかでも公園とはなんだろう。どうしたらいいんだろうということをみんなで話し合ったらいいのではないか。」という話があった。 <p>参加者：おもしろ広場運営委員会としての補足になるが「その他大庄おもしろ広場関係資料」の大庄おもしろ広場と公園の違いのところで、今までの公園とおもしろ広場で何ができるのかということのポイントを絞って書いているので参考にしてもらえたらと思う。またこの地域に必要な姿とはという記載部分も参考に、今までの公園でいいのか、おもしろ広場を参考に新しい公園を作っていくのか。そういった議論ができたらいいかと思う。</p> |

3 ワークショップ形式による各メンバーの意見について

(各テーブルの参加者で意見交換を行い、各自意見シートに記入した意見を取りまとめ、意見を発表)

市 : 第2回ワークショップのなかで、「体育館については建設ありきで話をするのではなく、体育館の記載のない図面を使ってどのような公園がいいのかを議論すべき」といった意見や、「市民委員会の提言に立ち返って、配置イメージのない白紙の段階から考えるべき」という意見をもらった。これらを踏まえて、今回のワークショップでは南ノ口公園を移転するところからスタートしたい。意見をもらう対象は旧大庄西中学校跡地とし、前回示した市の考え方や先ほど説明のあったおもしろ広場の考え方などもイメージしながら意見をもらいたい。跡地でこんな活動がしたいであったり、こんな施設がほしいというふうに考えてもらい、意見交換のなかで理由も添えてもらえれば深い議論ができると思う。

C テーブル発表意見

(ハード面)

- ・市民プール、アスレチック、サッカーや野球などボールが自由に使える広い場所がほしい。
- ・公共交通機関が不便な場所なので駐車場がほしい。

(ソフト面)

- ・花火、犬の散歩、体験学習などイベントができる場所にしたい。
- ・色々な年代の人が使える公園であったり、今ある公園にはない時代に沿った公園にしたい。

(防災面)

- ・提言にもあるように防災公園として整備するべき。

A テーブル発表意見

(防災面)

- ・水害を想定した高台にしたい。大きい高台にして盆踊りができるようにしてほしい。
- ・遊具を設置せず、芝生広場にしてほしい。
- ・防火林に囲まれた公園や、見通しのいい公園にしてほしい。
- ・火の見やぐらを丘の上に作り、津波避難施設も兼ねてはどうか。
- ・かまどベンチなど防災面を兼ね備えたものが欲しい。

(ハード面)

- ・交通利便性が悪いので、高台の下に駐車場を作り、敷地を有効活用してはどうか。
- ・野球場やサッカー場など利用者が限定される施設は作らず、親水施設をつくらどうか。
- ・木登りや水遊びなど子供が自由に遊べる公園がほしい。

(ソフト面)

- ・元浜緑地のように有人管理で開け閉めだけでもできるようにしてはどうか。
- ・大庄地域課が近いので、地域と大庄北生涯学習プラザが連携した管理をしたらどうか。
- ・参加者の責任で利用ルールが決められるような公園はどうか。
- ・地域全体で使うので、魅力のある使い方ができる公園にしたい。
- ・リスク面もあるが責任がとれるような公園。

B テーブル発表意見

(参加者共通の考え方)

- ・今後の地域の実情や社会事情から多世代の人が出会えるきっかけになるような場所になってほしい。
- ・これをしなければならぬという思いでこの場所にくるのではなく、用事がなくても行ってみたい場所、こういうことができるんだと発見してもらえ場所をしたい。

(ソフト面)

- ・多世代の人が楽しめる場所。例えばお母さん方などが売ったり買ったりできるマルシェのような場所。
- ・子供に対して地域の人が簡単な仕事などを教えることができる場所。
- ・困っている人に対してのお助け隊を派遣する詰め所のような空間。

(ハード面)

- ・児童館のような場所。
- ・生き物とのふれあいパーク。馬や身近にいる昆虫などと触れ合える場所があれば、子どもたちの学びに繋がるし、楽しく学べると思う。
- ・空中公園にして下を駐車場にすれば広い空間が確保できるのではないか

(防災面)

- ・災害時の為に広く使える空間。

4 今後のまちづくりワークショップの進め方

市 : 本日のワークショップで出た多数の意見やこれまでみなさんから意見のあった体育館の建設のことやおもしろ広場の活動などの論点整理が必要だと考えている。また、市の関係部署より、跡地活用の考え方を説明する場を設けてほしいと言われているため、負担をかけることになり申し訳ないが、部会に入る前に、論点整理や市の意見を伝える場として次回は部会ではなく、このメンバーでまちづくりワークショップをさせてほしい。

参加者 : 市が意見を持ち帰って整理をする時間が欲しいということと市の考えを伝える機会が欲しいということか。

市 : 例えば体育館がこの跡地にあるかわからない状態で部会で意見をもらっても、このワークショップでは論点整理ができないし、市の方からの説明を少し詳しくさせてもらえたらということである。

参加者 : 今ワークショップの話し合いが終わったばかりで、事務局でミーティングをしている様子もなかったが、突然もう一回ということは、初めからそのように考えていたのか。

市 : 次回は公園部会になっているが、今日の状態を事務局で持ち帰らせてもらい、もう少し、ハードとソフトを分けながら論点整理して、ワークショップのなかで議論できるところまで落とし込んで改めてもう一度議論させてほしい。次回、第4回のワークショップとして9月27日にさせてもらい、2時間ということになるが、そのなかで次の部会に進んでいいかという意見も聞きながら進めたい。

参加者 : 今日の話で民間売却の話は全く市としても言っていないし、公園の話はしたが公園のようなものについての整理もできていない。次回、集まった時に市としてはこうなんだという方針を示すということか。

市 : 市の方針を出すのではなく、ワークショップでみなさんの意見をまとめる。おもしろ広場の取り扱いをどうするかもそうだし、今日の意見も論点整理させてもらう。何も決めないまま部会に入るより、一定整理しながら進めていくべきという提案である。

参加者 : 終わった瞬間にそんな話をされたら一体我々は何のために今日来たのかと。事務局だけでそのような整理をされたらちょっと理解しがたい。

市 : 我々は部会に入る前に一定の整理をしたいということと、所管課の方でも、お

むしろ広場の取り扱いであったり、体育館の取り扱いであったり、市の考え方も示すなかで、ワークショップの意見として取りまとめていきたい。

参加者：今日でた意見については整理の時間があるというのは理解できるが、そもそも体育館がここにいるのかどうか、体育館の話はこのテーブルでも触れていなかったと思う。それがないなかで持って帰って次の時に体育館のことが提示されると誰も言っていないものがでてくることになるが、そこは今日整理しなくて大丈夫なのか。

市：本日は、第2回ワークショップを踏まえて、南ノ口公園を移転することを前提として跡地の議論をスタートさせている。そこに体育館とか住宅用地など市は前回一定意見を言っているが、そのあたりもふわっとした状態であり、部会に進んでも論点整理に時間がかかってしまう。部会に入る前に、そもそもここに体育館が入らないのであれば部会が必要なくなる。

参加者：今3つのテーブルに分かれてどんな公園にしようかと議論したのだから、どんな公園にするかという話だったらわかる。体育館をどうしようなんて話は出ていないのだから体育館なんてどうでもいい。市の説明もどうでもいい。まずこの公園をどうしようかという意見をまとめるのを次にやるのならば納得できる。もし今日体育館の話が出ているのなら体育館の話をして構わないがでない。

市：部会に論点整理しないまま進むのはどうなのかと思うので、次回は本日でた提案についても少し論点整理させてもらえたらと思う。おもしろ広場についても整理しないと前に進めないと思うので、次回は第4回ということで9月27日にこのメンバーでワークショップを開催させてもらいたいと思う。

5 その他

市：ファシリテーター研修については、第2回のワークショップの状況も踏まえて、参加者には部会でファシリテーター役ではなく、一般の方と一緒にワークショップに参加してもらおうと考えている。ファシリテーターについては、市の職員で対応する。

以上